

ダニエル書4章 「へりくだった者を立てる方」

1A 平安の挨拶 1-3

2A 切り倒される大木 4-18

3A 王自身に当てはまる夢 19-27

4A 見張られていた王 28-36

本文

ダニエル書 4 章を開いてください、私たちはついに、ネブカデネザルによる統治の最後の部分を読みます。そしてそれは、ネブカデネザル自身の回心、主なる神に立ち返るといふ驚くべき記録でもあります。

1A 平安の挨拶 1-3

4:1 ネブカデネザル王が、全土に住むすべての諸民、諸国、諸国語の者たちに書き送る。あなたがたに平安が豊かにあるように。4:2 いと高き神が私に行なわれたしるしと奇蹟とを知らせることは、私の喜びとするところである。4:3 そのしるしのなんと偉大なことよ。その奇蹟のなんと力強いことよ。その国は永遠にわたる国、その主権は代々限りなく続く。

ネブカデネザル王自身が書いている手紙であり、その挨拶の部分です。その相手は、彼が支配していたあらゆる民族、国々、国語の者たちでありました。前回、金の像を拝ませた時に、「諸民、諸国、諸州のすべての高官」を集めて、それにひれ伏させたことを思い出してください。そのようなことを行なっていたネブカデネザルは、なんと天におられる神をほめたたえる内容の手紙を書いています。彼こそが王の王、主の主であるはずなのですが、本人が自分の上に主権者であられる神がおられて、この方の国がとこしえに続き、主権が限りなく続くとほめたたえているのです。

彼は、「平安が豊かにあるように」と言っています。パウロやペテロの手紙の書き出しととても似ています。これは3章で燃える火の炉にダニエルの友人三人を投げ入れた時の彼の態度とは、大きく異なります。三人が火の中から救い出された後、彼は、「シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの神を侮る者はだれでも、その手足は切り離され、その家をごみの山とさせる。(29 節)」と言ってその横暴な態度は変えませんでした。その彼が今や「平安が豊かにあるように」と言っています。ダニエルから受けた霊的影響は測り知れないものがあります。そして、私たち人間が最も必要としていること、それが平安だと言ってもよいでしょう。その平安をどのようにして彼が得ることができたのか、それはへりくだりの中にあつた、ということです。

そして、ダニエルの神、またダニエルの友人三人の神を、「いと高き神」と呼んでいます。これま

でのダニエル書の記述で、バビロンの神々と彼らが信じる神との違いが強調されました。バビロンの知者たちは夢を示すことについてこう言いました。「王のお尋ねになることは、むずかしいことです。肉なる者とその住まいを共にされない神々以外には、それを王の前に示すことのできる者はいません。(2:11)」そして、金の像を拝まない三人に対してネブカデネザルは、「どの神が、私の手からあなたがたを救い出せよう。(3:15)」と挑みました。これまで自分が信じてきたバビロンの神々とは比べ物にならない方であり、はるかに高い所におられることを彼は認めたのです。そしてその方が行なわれる奇蹟と徴のことで、ほめたたえています。その奇蹟と徴とは、自分が獣のようになってしまったのに再び王の地位に戻り、今まで以上に権力と威光が与えられていることです。

2A 切り倒される大木 4-18

4:4 私、ネブカデネザルが私の家で気楽にしており、私の宮殿で栄えていたとき、4:5 私は一つの夢を見たが、それが私を恐れさせた。私の寝床での様々な幻想と頭に浮かんだ幻が、私を脅かした。

ここから、この手紙を彼は自分の統治の後半に書き送っていることを知ることができます。「宮殿で栄えていた」からです。2章における夢は、彼が統治を始めて間もない頃でした。これからこの国の行く末はどうなるのかと悩んでいたために、神が示してくださったのがその夢です。そして3章における金の像は、彼が国を、力をもって平定しようとしていた中期の頃でありました。軍事的また政治的に安定させるために、全バビロンにいる役人たちを集めて、自分を表す金の像を彼らに拝ませたのです。けれども今は、そのような政治的、軍事的不安定要因は消えて、彼がバビロンの建築事業に取り組むことができた時期に入っています。バビロンがいかに栄華に輝いた町であるかは、世界の七不思議に入っている「空中庭園」からも窺い知ることができます。大きな事業はほぼ成し遂げて、それで彼は自分の家で気楽にしていました。

4:6 それで、私は命令を下し、バビロンの知者をことごとく私の前に連れて来させて、その夢の解き明かしをさせようとした。4:7 そこで、呪法師、呪文師、カルデア人、星占いたちが来たとき、私は彼らにその夢を告げたが、彼らはその解き明かしを私に知らせることができなかった。4:8 しかし最後に、ダニエルが私の前に来た。・・彼の名は私の神の名にちなんでベルテシャツアルと呼ばれ、彼には聖なる神の霊があった。・・私はその夢を彼に告げた。

以前、彼が夢を見たときと同じように、バビロンの知者たちは彼の助けになりませんでした。全く相手にならない、今までと全く異なる次元の啓示でした。そして、なぜダニエルが最後に来たのでしょうか？おそらく、秘密を最も告げることができる人を最後にとっておいたからだと思います。小さな事柄は、ダニエルの下にいる知者たちに任せていたのですが、まず彼らに尋ねてみたのだと思われます。ちょうど医者にかかるとき、その分野の第一人者の所には後に行くように、です。

そしてダニエルと言ってから「ベルテシャツアル」と言い換えているのは、手紙を読むバビロンの人々にとっては、ダニエルはこのバビロン名で知られていたからでしょう。けれどもダニエルというイスラエルの神の名前が入っている名前を彼は使いたかったのだと思われます。ベルテシャツアルは、「私の神の名にちなんで」とネブカデネザルは言っています。その名とは「ベル」のことです。これはあくまでも、習慣的に言っていることなのでしょう。

そしてネブカデネザルは、ダニエルに「聖なる神の霊があった」と告白しています。これは驚くべきダニエルについての評価です。私たちは簡単に「イエスを信じる者には聖霊が内に住んでおられる。」と言いますが、はたして周囲の人がどれだけそれを認めることができるでしょうか。ダニエルはネブカデネザルと共に歳を取ったといっても過言ではありません。十代の時から彼に仕え何十年もいっしょにいます。その間、ダニエルは神の聖さについて証しすることができました。バビロンの神々には、この聖さがありませんでした。偶像というのは、元来、人間の欲望を表出するためのもので、金が欲しければ「マモン」を拝み、権力が欲しければ「バアル」を拝み、情欲を求めれば「アシュタロテ」を求めました。だから聖さは存在しないのです。けれども、まことの神は、私たちが肉に従うのではなく、御霊に従うように導かれます。

そして、先ほどバビロンの知者たちが解き明かしをすることができなかった理由の一つとして考えられるのは、この夢の内容が、ネブカデネザルのプライド、自尊心を激しく傷つけるものだった、ということです。彼のあり方を肯定するものであれば、いくらでも王にお世辞として語るができます。けれども、まことの神は私たちの悪を明るみに出されます。私たちが悔い改めて、光のところに來ることができるようにされます(ヨハネ 3:20-21 参照)。しかし、これまでダニエルが本当に王のことを思って語ってくれていたことを、王は知っていました。自分のことも顧みずに、真実を語ってくれるというところに、彼の中に住まわれる聖なる霊を見たのだと思います。

4:9 「呪法師の長ベルテシャツアル。私は、聖なる神の霊があなたにあり、どんな秘密もあなたにはむずかしくないことを知っている。私の見た夢の幻はこうだ。その解き明かしをしてもらいたい。
4:10 私の寝床で頭に浮かんだ幻、私の見た幻はこうだ。見ると、地の中央に木があった。それは非常に高かった。
4:11 その木は生長して強くなり、その高さは天に届いて、地の果てのどこからもそれが見えた。
4:12 葉は美しく、実も豊かで、それにはすべてのものの食糧があった。その下では野の獣がいこい、その枝には空の鳥が住み、すべての肉なるものはそれによって養われた。

ダニエルは以前の夢の解き明かしによって、バビロンの知者たちをつかさどる長官へと昇進していたので(2:48)、「呪法師の長」です。そして「どんな秘密もあなたにはむずかしくない」と言っていますが、同時期にバビロンにいたもう一人のエゼキエルは、ツロについて預言しているとき、「あなたはダニエルよりも知恵があり、どんな秘密もあなたに隠されていない。(28:3)」と言いました。つまり、ダニエルが夢を解き明かすことにおいて、全バビロンにその評判が広がっていたようです。

ダニエルは後で、この木が「ネブカデネザル本人」であると解き明します。非常に高くなる木、そして鳥や獣にもその潤いを与える木ですが、同じくエゼキエルはアッシリヤやエジプトのパロを、そびえ立つ杉の木として形容しました(31章)。

4:13 私が見た幻、寝床で頭に浮かんだ幻の中に、見ると、ひとりの見張りの者、聖なる者が天から降りて来た。4:14 彼は大声で叫んで、こう言った。『その木を切り倒し、枝を切り払え。その葉を振り落とし、実を投げ散らせ。獣をその下から、鳥をその枝から追い払え。』

これは神からの天使であります。天使の働きを聖書の中で見ますと、権力、権威、力は神から来ており(ローマ 13:1)、それを天使に神が託しておられるのを見ることができます(エペソ 1:21、ダニエル 10章など)。バビロンの王にも天使がいて、彼を見張っていたのです。私たちは、ことに権威が神から任されている者たちは、自分も必ず見張られていることを知らなければいけません。王のように権力が権威を持っている立場において、自分の裁量でいかようにでもできる領域において、自分が命令系統の一番上にいるのではなく、自分を命令する神がおられることを思って、畏れる必要があります。例えば自分が雇用者であれば、「主人たちよ。あなたがたは、自分たちの主も天におられることを知っているのですから、奴隷に対して正義と公平を示しなさい。(コロサイ 4:1)」という戒めがあります。

4:15 ただし、その根株を地に残し、これに鉄と青銅の鎖をかけて、野の若草の中に置き、天の露にぬれさせて、地の草を獣と分け合うようにせよ。4:16 その心を、人間の心から変えて、獣の心をそれに与え、七つの時をその上に過ごさせよ。4:17 この宣言は見張りの者たちの布告によるもの、この決定は聖なる者たちの命令によるものだ。それは、いと高き方が人間の国を支配し、これをみこころにかなう者に与え、また人間の中の最もへりくだった者をその上に立てることを、生ける者が知るためである。』

「木を切り倒せ」とこの見張りは言っていますが、「その根株を地に残し」とも言っています。完全に根こそぎにするわけではありません。ここに主の、ネブカデネザルに対する憐れみがあります。懲らしめというのは、いつもそうです。切り取られるのは非常に痛いですが、けれども、それは失われるためではなく、主は必ず私たちに、立ち上がるための機会を与えてくださいます。この「七つの時」は、ダニエル書に出てくる他の「時」を考えると「年」であると考えられます。12章に、「ひと時、ふた時、半時」とありますが、黙示録によればそれは三年半であることを知ることができます。つまり「時」は一年であり、「七つの時」は七年間のことです。

そしてここで大事な宣告があります。一つは、「いと高き方が人間の国を支配し、これをみこころにかなう者に与え」ということです。人がどんな計画を立て、どんな思惑で動こうとも、そして権力や知恵が与えられていても、いと高き方、天におられる神が支配をして、ご自分の思われるままに

動かしておられるということです。そして、そうした権力でさえも、神がその主権によって与えている力なのということです。私たちがこの地で生きていの中で、いろいろなことが起こり、不条理なこともたくさんあります。人間が行なっていることで、起こっている嫌なことはたくさんあります。けれども、それが主によって、私たちの思いを超えるところにある御旨によって、起こっているということを知る必要があります。

そしてそのような中で、最も大事な素質が、「へりくだった者」ということです。主がすべてを行われることを認めて、主の御心に任せるということ。世においては、正反対のことを教えています。自分を高めなければ、得るものも得られないという哲学です。時に宗教までもが、「あなたが神をしっかり信じれば、幸せになれる。」という成功哲学に基づいています。しかし、福音によれば、捨てることによって得ます。イエス様も、命を捨てられたことによって、かえって命を得ました。父なる神が、死者の中からイエス様を甦らせてくださったのです。マタイ5章5節には、「柔和な者は幸いです。その人は地を相続するからです。」とありますが、これは「へりくだった者」と訳すこともできます。私たちの集まりは、したがって、自分の弱さを明かすようなもの、自分がへりくだることによって、初めてキリストを得たという分かち合いになります。世においては、自分ができるもの、自分がすかれるものを出し合うことによって、サークルにしても、何にしても成り立っていますが、教会は神によってへりくだることによって、集まっているところです。

4:18 私、ネブカデネザル王が見た夢とはこれだ。ベルテシャツアルよ。あなたはその解き明かしを述べよ。私の国の知者たちはだれも、その解き明かしを私に知らせることができない。しかし、あなたにはできる。あなたには、聖なる神の霊があるからだ。」

ネブカデネザルは再び、ダニエルへの信頼を言い表しています。けれども、これは一方通行ではありませんでした。ダニエルもネブカデネザルを愛し、尊敬の心をもって仕えていることを次の節から読むことができます。

3A 王自身に当てはまる夢 19-27

4:19 そのとき、ベルテシャツアルと呼ばれていたダニエルは、しばらくの間、驚きすくみ、おびえた。王は話しかけて言った。「ベルテシャツアル。あなたはこの夢と解き明かしを恐れることはない。」ベルテシャツアルは答えて言った。「わが主よ。どうか、この夢があなたを憎む者たちに当てはまり、その解き明かしがあなたの敵に当てはまりますように。」

ダニエルは真にそう願っていたに違いありません。ネブカデネザルは横暴な王でした。残酷で、無慈悲な王でした。けれども彼は、ネブカデネザルの身にこの災いが襲いかかることを望みませんでした。それは彼を敬い、愛していたからです。「しもべたちよ。尊敬の心を込めて主人に服従しなさい。善良で優しい主人に対してだけでなく、横暴な主人に対しても従いなさい。(1ペテロ2:18)」

そして愛は、「人のした悪を思わず(1コリント 13:5)」とあります。私たちは、まだ信仰を持っていない人の罪を暴くことが、務めではありません。その人の置かれている立場に寄り添い、そしてその人の益になることを考えます。そして、その中で主に仕え、他の人々とキリスト者は違うのだということ进行らかにするのです。それから罪を指摘することもあるでしょう、けれども順番を逆にははいけません。

4:20 あなたがご覧になった木、すなわち、生長して強くなり、その高さは天に届いて、地のどこからも見え、4:21 その葉は美しく、実も豊かで、それにはすべてのものの食糧があり、その下に野の獣が住み、その枝に空の鳥が宿った木、4:22 王さま、その木はあなたです。あなたは大きくなって強くなり、あなたの偉大さは増し加わって天に達し、あなたの主権は地の果てにまで及んでいます。4:23 しかし王は、ひとりの見張りの者、聖なる者が天から降りて来てこう言うのをご覧になりました。『この木を切り倒して滅ぼせ。ただし、その根株を地に残し、これに鉄と青銅の鎖をかけて、野の若草の中に置き、天の露にぬれさせて、七つの時がその上を過ぎるまで野の獣と草を分け合うようにせよ。』4:24 王さま。その解き明かしは次のとおりです。これは、いと高き方の宣言であって、わが主、王さまに起こることです。

そのまま、あなたに起こることですと、畏れかしこみつつ、けれども隠すことなく伝えてあります。これが、神を知らない人々の間において証しをする時の原則です。「1ペテロ 3:15-16 むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。ただし、優しく、慎み恐れて、また、正しい良心をもって弁明しなさい。」

4:25 あなたは人間の中から追い出され、野の獣とともに住み、牛のように草を食べ、天の露にぬれます。こうして、七つの時が過ぎ、あなたは、いと高き方が人間の国を支配し、その国をみこころにかなう者にお与えになることを知るようになります。4:26 ただし、木の根株は残しておくと命じられていますから、天が支配するということをあなたが知るようになれば、あなたの国はあなたのために堅く立ちましょう。4:27 それゆえ、王さま、私の勧告を快く受け入れて、正しい行ないによってあなたの罪を除き、貧しい者をあわれんであなたの咎を除いてください。そうすれば、あなたの繁栄は長く続くでしょう。」

勧告しています、内容は、「正しい行ないによってあなたの罪を除き、貧しい者をあわれんであなたの咎を除いてください」ではありますが、これは行ないによる救いを意味していません。主権者である王として、その治世において正さなければいけないことを話しています。その栄華と富の背後には、重税があり、奴隷を働かせていたので、それで虐げていました。それで政策提言者としての、助言を行ったのです。

このようにダニエルは、全てを解き明かした後で、助言、勧告を行なっています。初めに罪を指摘するわけではありません、先ほど読んだように、正しい良心をもって行なうのです。人々に対して、何でも罪を指摘することが、神から与えられた務めだと思っている人たちがいます。けれども、相手に寄り添うということによって、初めてできる働きです。

4A 見張られていた王 28-36

4:28 このことがみな、ネブカデネザル王の身に起こった。4:29 十二か月の後、彼がバビロンの王の宮殿の屋上を歩いていたとき、4:30 王はこう言っていた。「この大バビロンは、私の権力によって、王の家とするために、また、私の威光を輝かすために、私が建てたものではないか。」

「十二か月の後」です。ダニエルからの勧告を受けてからもう一年も経っていました。聞いた時はその解き明かしを真剣に受け止めたかもしれませんが、一年も経てば忘れてしまいます。私たちの心が試されることを午前中に話しましたが、それゆえに、私たちは常に、聖霊によって神に対する希望と愛が注がれていないといけません。「ローマ 5:5 この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」マタイ 25 章には、十人の乙女の喩えがあり、五人の賢い乙女は油を用意して、花婿を待っていました。私たちは、眠ってしまわないように、聖霊による神の愛を受ける必要があります。

それで彼が言ったことは、注目に値します。「私」という言葉が繰り返し出てきます。日本語の翻訳だと少なくなっていますが、英語だと I とか my とか何度も出てきます。これが高慢の種です。バビロンの王に対する歌が 14 章にあります、その背後にルシファーと呼ばれる悪魔がいたことを知ります。「私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山にすわろう。(13 節)」ここにも「私は」とか「私の」が繰り返し出てきます。その反対は何でしょうか？そうです「神の主権」です。「すべてのことが、神から発し、神によって成り、神に至るからです。どうか、この神に、栄光がとこしえにありますように。(ローマ 11:36)」「私」ではなく「神」なのです。自分の生活のあらゆる領域で神の介入と支配を認めるのです。これがへりくだりの道です。

4:31 このことばがまだ王の口にあるうちに、天から声があった。「ネブカデネザル王。あなたに告げる。国はあなたから取り去られた。4:32 あなたは人間の中から追い出され、野の獣とともに住み、牛のように草を食べ、こうして七つの時があなたの上を過ぎ、ついに、あなたは、いと高き方が人間の国を支配し、その国をみこころにかなう者にお与えになることを知るようになる。」

「口にあるうちに」です。権力の与えられている者はこのようにして、絶えずさらに大きい力と権威のある存在から見張られているということです。

4:33 このことばは、ただちにネブカデネザルの上に成就した。彼は人間の中から追い出され、牛

のように草を食べ、そのからだは天の露にぬれて、ついに、彼の髪の毛は鷲の羽のようになり、爪は鳥の爪のようになった。

この状態はおそらく、現代で言うなら精神病の何かだったのだと思われます。王が突然、狂気の沙汰に陥りました。けれども王位は退けられていません。おそらく王の顧問たちは、ダニエルの助言を聞いて、おそらくは彼をそのまま宮廷の中で守っていたのでしょう。ダニエルも、王の不在の期間、行政をつかさどっていたのだと思われます。彼に理性が戻った後で、顧問たちが彼にまた仕え始めるからです。

4:34 その期間が終わったとき、私、ネブカデネザルは目を上げて天を見た。すると私に理性が戻って来た。それで、私はいと高き方をほめたたえ、永遠に生きる方を賛美し、ほめたたえた。その主権は永遠の主権。その国は代々限りなく続く。4:35 地に住むものはみな、無きものとみなされる。彼は、天の軍勢も、地に住むものも、みこころのままにあしらう。御手を差し押えて、「あなたは何をされるのか。」と言う者もない。

すばらしいです、理性が戻ってきた後に彼から出てきた言葉は、神への賛美です。このような目に合わせた神をののしってもおかしくありません。けれども、ここにダニエルの立派な証しが、ネブカデネザルを正しく応答せしめたと言えます。彼はこの辛い経験を、苦みを抱く原因にするのではなく、むしろへりくだる機会とするほどの神の知識を得ていました。

神の永遠性をまずほめたたえています。私たちは、目に見えるものに目を留めず、目の見えないう方に目を留めます。「2コリント 4:18 私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。」そして、その主権をほめたたえています。まず、「無きものとみなされる」についてですが、イザヤ書 40 章に、「見よ。国々は、手おけの一しづく、はかりの上のごみのようにみなされる。見よ。主は島々を細かいちりのように取り上げる。(15 節)」とあります。こんなに神は大きな方なのですから、「君主たちを無に帰し、地のさばきつかさをむなししいものにされる。(23 節)」のです。

そして、地に住むものだけでなく「天の軍勢」も、みこころのままにあしらっておられます。天使がどれほど勢いよく、力強いかは、聖書の中でしばしば紹介されています。黙示録を読んでください、天使が自然災害をもたらしたり、また逆に、風を吹き付けないように押しとどめたりしています。主が復活された後、墓に一人の天使が来ただけで、大きな地震が起き、石が転がりました。そして黙示録には、このような天使が「万の幾万倍、千の幾千倍(5:11)」いるとあります。これら無数の天使を、みこころのままにあしらっておられるのが、私たちの神です。

そして、「御手を差し押えて、『あなたは何をされるのか。』と言う者もない。」と言っています。

神がなされることは、誰も止めることはできません。けれども私たちは言い逆らってしまいます。「しかし、人よ。神に言い逆らうあなたは、いったい何ですか。形造られた者が形造った者に対して、『あなたはなぜ、私をこのようなものにしたのですか。』と言えるでしょうか。陶器を作る者は、同じ土のかたまりから、尊いことに用いる器でも、また、つまらないことに用いる器でも作る権利を持っていないのでしょうか。(ローマ 9:20-21)」言い逆らうことは、まるで陶器が陶器師に訴えるのと同じなのです。私たちが神に訴えることよりも、神の私たちに対する訴えに対して、へりくだって、悔い改める時、信仰の成長があります。そして形を変えられるのは痛いかもしれないけれども、陶器師である神の御手によって、尊い器になることができます。

4:36 私が理性を取り戻したとき、私の王国の光栄のために、私の威光も輝きも私に戻って来た。私の顧問も貴人たちも私を迎えたので、私は王位を確立し、以前にもまして大いなる者となった。
4:37 今、私、ネブカデネザルは、天の王を賛美し、あがめ、ほめたたえる。そのみわざはことごとく真実であり、その道は正義である。また、高ぶって歩む者をへりくだった者とされる。

すばらしいですね、主が彼を引き上げてくださいました。以前にもまして大いなる者となりました。次の使徒ペテロの言葉がネブカデネザルにぴったりと当てはまります。「ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくださるためです。(1ペテロ 5:6 下線筆者)」神は恵み深い方です。神は立ち上がる者にはいつでも機会を与え、以前にもまして祝福することもなさるのです。

彼は、天の主を、「そのみわざはことごとく真実であり、その道は正義である。」と認めています。主が真実であり、自分は偽り者である。主の道が正義であり、私は悪者である。主がアーメンであられ、私はちりあくたに過ぎない、ということです。これができる人は、へりくだった人です。そして最後に、「高ぶって歩む者をへりくだった者とされる。」としめくくっています。これが聖書に出て来る、一貫した神の取り扱いです。イエス様ご自身が、「ルカ 18:14 だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされる」と言われました。今回は、この教訓をさえ学ばなかったバビロンの最後の王ベルシャツアルについて学びます。残されているのは破滅のみです。私たちは、いつかどこかの時点で神の国が永遠であることを学びます。自分ではなく神が支配しておられるのです。それが早ければ、平安に満ちた生活をその後送ることができます。遅ければ遅いほど、碎かれる時の痛みは増します。

このように、ネブカデネザルの生涯を見ました。ここで知っていただきたいことは、「神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。(ローマ 8:31)」という言葉です。あらゆる権威、力、位が与えられていたネブカデネザルでした。しかし、そのネブカデネザルをしても、神の人ダニエルのそばにいてことによって、彼が天の主の下に入ることになったのです。神は、このようにして私たちの証しの力を与えられます。「異邦人の中にあつて、りっぱにふるまいなさい。そう

すれば、彼らは、何かのことであなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのそのりっぱな行ないを見て、おとずれの日に神をほめたたえるようになります。(1ペテロ 2:12)これがまさに、ダニエルの生涯で起こりました。ネブカデネザルが神をほめたたえたのです。そして続けてペテロ第2章には、「人の立てたすべての制度に、主のゆえに従いなさい。..神を恐れ、王を尊びなさい。(13,17節)」とあります。主のゆえに王を尊び、その制度に従ったダニエルです。

さらに、もっと大きな神の救いのご計画を見れば、エルサレムを破壊した張本人がネブカデネザルであります。そのネブカデネザルがエルサレムの神をほめたたえたのです。これだけ力ある回心ができたのは、ひとえにダニエルと友人三人が、神を恐れ、王を敬うその姿勢を貫いたからです。このネブカデネザルが、エレミヤ書において主は、彼を「わたしのしもべ(27:6)」と呼ばれています。神は、神の裁きの器として用いられたということで彼のしもべでありましたが、それだけでなく、自分自身も神をほめたたえる僕となりました。すべてを神は支配しておられます。神が味方なので、全てのことを働かせて益としてくださり、ご自分の勝利の中に飲み込まれるのです。